レセプト電算処理システム マスターファイル仕様説明書

令和6年度版

編集 社会保険診療報酬支払基金

(7) 医科診療行為マスター

項番	項目名	形式			内 容
		モード	最大 バイト	項目 形式	
1	変更区分	数字	1	固定	レコードの異動状況を表す。 0：前マスターの内容と同じであることを表す。 1：抹消 3：新規 5：変更 9：廃止 「9：廃止」は、当該コードが使用できなくなったことを表す。 次のマスター更新時に、当該コードを削除する。
2	マスター種別	英数	1	固定	「S」を設定する。 (医科診療行為マスターであることを表す。)
3	診療行為コード	数字	9	固定	
	区分		(1)		診療行為コードを表す「1」を設定する。
	番号		(8)		診療行為ごとに重複しない番号を設定する。
4	診療行為省略名称				出力紙レセプト等に出力する名称（省略名称）を設定する。
	省略漢字有効桁数	数字	2	可変	項番5「省略漢字名称」の文字数を表す。
	省略漢字名称	漢字	6 4	可変	漢字：3 2文字
	省略カナ有効桁数	数字	2	可変	項番7「省略カナ名称」の文字数を表す。
	省略カナ名称	英数 カナ	2 0	可変	半角英数カナ：2 0文字 項番5「省略漢字名称」のカナ名称を表す。
8	データ規格コード	数字	3	可変	記録条件仕様に規定する診療行為レコードの「数量データ」欄に（以下、「数量データ」という。）記録が必要な診療行為の算定単位を表す。 数量データの記録が不要な診療行為は、「0」を設定する。 データ規格コードの単位コードは「別紙4-1」のとおりである。
9	データ規格名				データ規格コードの名称（単位）を設定する。 データ規格コードの名称は「別紙4-1」のとおりである。
	漢字有効桁数	数字	1	固定	項番10「漢字名称」の文字数を表す。 未使用の場合：「0」を設定する。
10	漢字名称	漢字	1 2	可変	漢字：6文字 未使用の場合：省略

項番	項目名	形式			内 容
		モード	最大 バイト	項目 形式	
					10：感染症免疫学的検査のうち、グロブリンクラス別ウイルス抗体価 11：血漿蛋白免疫学的検査のうち、特異的 I g E 半定量・定量 13：悪性腫瘍遺伝子検査（処理が容易なもの） 14：悪性腫瘍遺伝子検査（処理が複雑なもの） 15：悪性腫瘍遺伝子検査（血液・血漿）（ROS1 融合遺伝子検査、ALK 融合遺伝子検査、RAS 遺伝子検査、BRAF 遺伝子検査、HER2 遺伝子検査（大腸癌に係るもの）、マイクロサテライト不安定性検査、EGFR 遺伝子検査（血漿）） 16：悪性腫瘍遺伝子検査（血液・血漿）（METex14 遺伝子検査、NTRK 融合遺伝子検査、HER2 遺伝子検査（肺癌に係るもの））
17	予備	数字	1	固定	未使用：「0」を設定する。
18	DPC適用区分	数字	1	固定	診断群分類（DPC）点数表に規定する点数に含まれる診療行為であるか否かを表す。 0：診断群分類（DPC）点数表に規定する点数に含まれる診療行為（包括評価対象） 1：DPCレセプトの出来高部分で算定可能な診療行為 2：DPC専用（特定機能病院が使用する診療行為） 3：DPC専用（「2」及び「4」以外の診療行為） 4：DPC専用（専門病院が使用する診療行為） 9：診断群分類（DPC）点数表の適用外となる診療行為（包括評価対象外）
19	病院・診療所区分	数字	1	固定	当該診療行為の適用範囲が病院又は診療所であるか否か、また、DPC対象病院に適用されない診療行為かを表す。 0：「1」から「4」以外の診療行為 1：病院に限り適用される診療行為 2：診療所に限り適用される診療行為 4：短期滞在手術等基本料3
20	画像等手術支援加算	数字	1	固定	画像等手術支援加算を算定可能な診療行為であるか否かを表す。 <基本項目、合成項目、準用項目> 0：「1」から「 6 7」以外の診療行為 1：ナビゲーションによる支援加算（2,000点）を算定可能な診療行為 2：実物大臓器立体モデルによる支援加算（2,000点）を算定可能な診療行為 3：ナビゲーション又は実物大臓器立体モデルによる支援加算（共に2,000点）を算定可能な診療行為 4：患者適合型手術支援ガイドによる支援加算（2,000点）を算定可能な診療行為

項番	項目名	形式			内 容
		モード	最大 バイト	項目 形式	
					<p>5：ナビゲーション又は患者適合型手術支援ガイドによる支援加算（共に2,000点）を算定可能な診療行為</p> <p>6：実物大臓器立体モデル又は患者適合型手術支援ガイドによる支援加算（共に2,000点）を算定可能な診療行為</p> <p><u>7：実物大心臓3Dモデルによる支援加算（18,000点）を算定可能な診療行為</u></p> <p><加算項目、通則加算項目></p> <p>0：「1」、「2」、<u>及び「4」及び「6」</u>以外の診療行為</p> <p>1：ナビゲーションによる支援加算自体</p> <p>2：実物大臓器立体モデルによる支援加算自体</p> <p>4：患者適合型手術支援ガイドによる支援加算自体</p> <p><u>6：実物大心臓3Dモデルによる支援加算自体</u></p> <p>※ 「基本項目」及び「合成項目」等の種別は、項番68「告示等識別区分（1）」を参照。</p>
21	医療観察法対象区分	数字	1	固定	<p>医療観察診療報酬点数表において算定可能な診療行為であるか否かを表す。</p> <p>0：「1」から「4」以外の診療行為</p> <p>1：入院に限り出来高部分で算定可能な診療行為</p> <p>2：入院外（通院）に限り出来高部分で算定可能な診療行為</p> <p>3：入院及び入院外（通院）に出来高部分で算定可能な診療行為</p> <p>4：医療観察診療報酬点数表に規定する診療行為</p>
22	看護加算	数字	2	可変	<p>看護加算に関する診療行為であるか否かを表す。</p> <p>看護加算コードは「別紙7-3」のとおりである。</p>
23	麻酔識別区分	数字	1	固定	<p>マスク又は気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔の診療行為であるか否かを表す。</p> <p>0：「1」から「9」以外の診療行為</p> <p>1：マスク又は気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔1</p> <p>2：マスク又は気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔2</p> <p>3：マスク又は気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔3</p> <p>4：マスク又は気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔4</p> <p>5：マスク又は気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔5</p> <p>6：神経ブロック併加算（厚生労働大臣が定める患者）</p> <p>7：臓器移植術加算・神経ブロック併加算（イ以外）・非侵襲的血行動態モニタリング加算・術中脳灌流モニタリング加算</p> <p>8：術中経食道心エコー連続監視加算</p> <p>9：硬膜外麻酔併加算</p>

別紙

傷病名マスターの補足説明

1 異字体等の傷病名表記の取扱い

傷病名マスターの傷病名称に使用する文字は、下表のとおり、「異字体」の文字を原則「統一語」で表記している。

異字体	統一語	異字体	統一語	異字体	統一語	異字体	統一語
齧蝕	う蝕	拇	母	頸	頸	歇	欠
髮	髮	癆	ろう	膻	膻	條	条
彎	弯	窿	隆	鈎	鈎	疝	仙
臀	殿	穹窿	穹隆	靱	靱	臟	臟
弓隆	穹隆	え死	壊死	鼠 兎	兎 鼠	糜	び
殼	殼						

2 傷病名の表記等

(1) 傷病名の「症」の有無

傷病名表記に用いる「症」の取扱いは、次のとおりである。

ア 症なし：「結核」、「～パチー」、「～トロフィー」、「梗塞」、「うっ血」

イ 症あり：「狭窄」、「閉塞」、「血栓」、「塞栓」、「閉鎖不全」、「硬化」

ウ 例 外：「骨形成不全症」、「視野狭窄」、「気道閉塞」など

※ 傷病名の表記は、個々の病態等によって、若干、相違する場合がある。

(2) 足指及び手指に関連する傷病名の表記

ア 足の指は、「趾」に統一し、読みを「シ」としている。

イ 手の指は、原則、「手指」に統一し、読みを「シュシ」としている。

3 傷病名変更及びコード設定のルール

傷病名表記の統一の推進を図るため、傷病名の表記を変更する場合は、原則、新たな傷病名として取り扱い、現在使用していない新規の傷病名コード（7桁）を追加（特に意味を持たない重複しないコードを設定）する。

なお、「カナ表記」を「漢字表記」に変更する場合など、比較的軽微な表記の変更は、新規に傷病名コードを設定しない場合がある。

4 単独で使用を禁止する傷病名等の識別区分

部位等の記録を要する包括的な表記の傷病名やレセプト表示等に使用することが望ましくないと判断される傷病名等には、識別情報を設定する。

【傷病名コードの単独による使用を禁止している傷病名の事例】

① 「骨折」、「腫瘍」、「打撲傷」など（単独使用禁止区分）

傷病名コードと併せて、修飾語コードによる部位等の記録を要する。

② 「健康診断」、「正常妊娠」、「予防接種」など（保険請求外区分）